日本のハンセン病療養所は今どうなっているの？

現在、日本には国立と私立、合わせて14カ所のハンセン病療養所があります。

療養所には、入所している人の家や、体のぐあいが悪くなった時に治療をする病院、亡くなった後に入るお墓（納骨堂）があります。

納骨堂（多磨全生園　2019年撮影）

入所している人たちには、それぞれの部屋があり、自分で生活しています。また、体の不自由な人は生活を助ける人（介護員さん）に手伝ってもらっています。

でも、だんだん年をとり、人数も減って、寂しくなってきています。

国立ハンセン病資料館の展示室
各療養所にも展示や交流を行う施設があります

療養所では今、お花見や夏祭り、文化祭など、交流のための行事が行われています。また隔離や差別などがくりかえされないように、ハンセン病の歴史を学ぶことのできる資料館もあります。